



【活動目標】支援現場での三障害一元化を目指し、障害者の存在それ自体を我が事とする価値観をもって、諸事業に真摯に取り組みます

障サ協
広報紙

山口県障害福祉 サービス協議会通信

発行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員会 〒753-0072 山口市大手町9番6号
電話：083-924-2799 FAX：083-924-2798 メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

会員事業所紹介（第12回）

ハイツふなぎ（自立訓練事業）

自立を目指し、地域生活への第一歩を踏み出す拠点

広報委員が会員事業所を訪問し、支援現場の雰囲気に触れながら、職員や利用者との関わり、事業所の特色やアピール点、課題や悩み等についてお聞きする会員事業所紹介です。

今回は、宇部市にある社会福祉法人扶老会「ハイツふなぎ」をご紹介します。感染予防のため、リモート取材で所長の佐伯豪さんとサービス管理責任者の藤田光紗さんにお話を聞かせて頂きました。

1. 開所の経緯をお聞かせください

佐伯：ハイツふなぎは平成3年4月1日に開設されました。母体である扶老会病院は精神科が中心で、入院患者が社会復帰を目指す際の受け入れ先として、前理事長の意向もあり、精神障害者社会復帰施設（援護寮）として県内で2番目に開設されました。

現在は「自立訓練・就労継続支援B型」ハイツふなぎ、「グループホーム ヴィラふなぎ」「就労移行支援・就労継続支援B型 サムラ」「相談支援・日中一時支援事業生活支援センターふなぎ」の4事業所を運営しています。

2. 現在の利用状況を教えてください

佐伯：定員20名に対し、現在はコロナ禍で新規に利用される方が減っているため利用は10名です。また、宿泊型自立訓練は

利用期間が2年間と決まっているため、利用される方の回転が早いのが特徴です。精神障害の方が中心ですが、発達障害などの重複障害がある方も多くおられます。

最近では市外から利用される方も増えていきます。また、自法人の病院より他の病院などからの紹介で利用される方が多いです。

3. 利用者の特性に応じた支援の配慮や工夫、大切にしていることは何でしょうか？

藤田：例えば発達障害の方に対してコミュニケーションスキル習得に向けた訓練をする等、障害の種類や程度が一人ひとり違うので、それぞれに合った個別支援ができるようにしています。集団プログラムについてもみんなのできる内容を精査し、



生活お助けプログラムの様子



ハイツふなぎ

設置法人：社会福祉法人扶老会
実施事業：自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業
所長：佐伯 豪
〒757-0216 宇部市大字船木833-21
TEL 0836-67-0188 FAX 0836-67-0888



集団プログラム（スポーツ）の様子

4. 事業所の特性及びアピールポイントを教えてください

藤田：精神科病院を退院する方や、ひきこもりや不登校の方など、これから支援スタートとなる方に個別対応することができ、一人ひとりにストーリー性を持って頂き、2年をかけて望む生活を送ることができるよう丁寧に訓練しています。また、利用後のフォロー体制もあり、地域で生活できるよう、一人暮らし